

## 所 感

長崎市議会議員 源城 和雄

### 欧州訪問団報告書

(訪問日：2013年4月15日～25日)

#### 【総 評】

今回、市長の公式訪問と日程を合わせ、ドイツ「ヴュルツブルグ」、モナコ、スイス「ジュネーブ」の3都市を訪問し、それぞれの国での調印式、意見交換などに同席するなど濃密な内容と時間を経験することができました。

11日間という限られた日程の中ではありましたが、長崎市が今後さらに国際都市として広がりを見せていく、重要な場面に立ち会えたことに感謝するとともに、私も訪問団の一員として一定の役割を果たせたという自負を実感できた各都市の訪問でした。

以下、訪問各都市における訪問内容を記します。

#### 【訪問内容】

### 1. ドイツ「ヴュルツブルグ」(4月16日～17日)

#### ① ヴュルツブルグにおけるシーボルト家

シーボルトは、ドイツのヴュルツブルグ市に生まれている。祖父と父は高名な医学教授というドイツ医学界の名門の家であり、彼の一族が活躍するヴュルツブルグ大学は「シーボルト学校」とまで言われている。

現在、「シーボルト」の名は子孫の間では残っていないが、シーボルトの次女がブランデンシュタイン家に嫁ぎ、その息子が、飛行船建造で有名なツェッペリン伯爵の娘と結婚したため両方の家名を継いでおり、シーボルト家の遺産を受け継いでいるのは、現在このブランデンシュタイン=ツェッペリン家のみとなっている。

#### ② 統一した景観のヴュルツブルグ市街地

メイン川の中流域に位置する。中世より神聖ローマ帝国の司教領として栄えた人口13.5万人の都市であり、市街地の屋根は赤い瓦で統一されて素晴らしい景観を見せている。これはかつての大戦で1945年イギリス空軍の爆撃によって街の90%を焼失したものの、そ

の後半世紀かけて復活させたものということであった。

世界的に有名なヴュルツブルグの大司教の宮殿であったレジデンツは、その庭園群と広場を含め、1981年にユネスコ世界遺産に登録されている。ドイツ観光街道の代表的存在であるロマンティック街道の起点として、またフランケン・ワインの集積地として知られている。

### ③ 「市民友好都市提携調印式」

日本における西洋医学の基礎を築くとともに、日本の近代化に大きく寄与したシーボルトの生誕地である同市には、シーボルトに関係する団体によって、シーボルトが日本から持ち帰ったとされる資料や遺品が保管され、市内にヴュルツブルグ市から無償で借り受けて開設している「シーボルト博物館」において公開されている。

今回の友好都市提携は、シーボルトがつなぐ両市の歴史的関係を未来に継承するとともに、市民や民間団体間の交流を一層促進させようとするものです。

調印式は、アルテ・マイン橋の旧市街側のたもとに12世紀に建てられたという、歴史を感じさせる市庁舎内の市議会議場で行われ、中根駐ドイツ日本国大使ご臨席の中、ローゼンタール・ヴュルツブルグ市長との間で、今後の両市民の交流促進について確認し、調印を行なった。

### ④ シーボルト協会の皆さんとの交歓会

滞在中、シーボルト協会会長のブランデンシュタイン＝ツェッペリン伯爵をはじめとする、シーボルト協会の皆さんとの間で開催された交歓会では、シーボルトに対する思いや、それぞれの異郷の地の話に花が咲き、交流を深めることができました。

交歓会最後に披露された、シーボルト協会の皆さんによる歌は「北国の春」「琵琶湖周航の歌」で、歌詞カードなしでの合唱では日本に対する熱い思いを感じた場面でした。

## 2. モナコ(4月18日～20日)

### ① モナコは世界で2番目に小さい国

モナコ公国は西ヨーロッパの立憲君主制国家。都市国家であり、首都モナコ市がそのまま全領土となっている。

人口3.6万人、面積2k㎡の世界で2番目に小さいミニ国家で、国連加盟国の中では世界最小の国。フランスの地中海沿岸地方コート・ダジュールのイタリアとの国境近くに位置する。

カジノやF1モナコグランプリ、WRC・ラリー・モンテカルロが開催されることで知られる。

## ② モナコから夜景観光名誉証明書の交付を受ける

昨年10月に香港とともに世界新3大夜景に認定されたことを記念して、モナコ政府観光会議局長のギヨーム・ローズ氏から名誉証明書の交付を受けました。

今回の欧州訪問の目的の一つであったものであり、これを機会に夜景都市としての交流が深まっていく大きなきっかけづくりが構築された。今後の関係づくりに大きな期待を感じた場面でした。

## ③ 多彩なモナコの夜景

モナコは、山の上から見下ろす市街地の夜景と、港の海面に映えるマリーナの光群の夜景などと多彩です。

1日目の夜は、モナコ西部にある「フォンヴィエイユ港」の夜景観賞です。

豪華なヨットやクルーザーを含むマリーナの光群や、断崖を映すライトアップが海に映え、幻想的な世界を作り上げていました。

2日目の夜は、モナコ東部に位置するフランス領の山麓からの夜景観賞です。

モナコの市街地は湾岸部から山へと続く傾斜地に広がっていることから、パノラマ的に夜景鑑賞できるポイントが点在しており、長崎の夜景と趣が似ています。

また、夜間のライトアップは、住民のみならずモナコを訪れる観光客にとっての治安、安全にも大変大きな意味をもたらしており、治安維持が観光立国モナコの特徴のひとつとなっています。

## ④ モナコ市庁舎表敬訪問

モナコ側出席者：モナコ市副市長

メドサン駐日モナコ大使

(モナコ市)

モナコが長崎とともに「世界新3大夜景」に選ばれたことは光栄です。

両都市は夜景以外にも共通点が多くある、

海から開かれた街であること。教会が街の中で大切にされていること。そして平和を願う街であることです。

## ⑤ モナコ観光会議局長との意見交換

モナコ側出席者：ギヨーム・ローズモナコ政府観光会議局長

メドサン駐日モナコ大使

モナコは経済と観光をメインとする国です。はかつて貧しい国であったが、19世紀にフランスから独立し、チャールズ3世によってモナコは豊かな国となった。

1863年にカジノを作り、裕福な国としてスタートした。

観光客は年間 700 万人であり、日本人客は約 2%で来客国順では 9 番目。

国境がないのでパスポート不要。

モナコはナイトクラブ、カジノが多く、夜の観光に力を入れており、それが夜景観光につながっている。

モナコでは年間 700 ものイベント(スポーツ、オペラ、バレエ、他)を行っており、民間主導で実施されている。

また、モナコといえばカジノという印象が強いが、現在は会議招致にも力を入れており、その多くが 9 月から 4 月のローシーズンであり、ホテルの収益の 20%が会議開催によるものとなっている。

会議は 1,000 人規模までが運営しやすい。また、会議開催に派手なものは敬遠されるため、地味でハイクオリティな会議ができるようにしている。

会議招致に求められる条件として、銀行や病院など必要な施設が全て歩ける範囲にあることが求められる。それがモナコにはある。

ホテル稼働率は現在年間 61%。今年冬(1.2 月)で 50%であったが今後 75%をめざし、年間で 85%を目標にしている。

### **3. スイス「ジュネーブ」(4月21日~23日)**

#### **① NPT 再検討会議第 2 回準備委員会開会式傍聴**

会場である欧州国連本部に入場するには国連パスへの登録が必要ということで、その手続きに入場口までの長い列に並ぶこと 1 時間半(市長も同様)。

やっと入場できたものの定刻の 10 時を 1 時間以上過ぎてしま始まらない。開会にあたって進め方の事前調整が整わないからだとのこと。やっと昼過ぎからの討論を傍聴することができた。

様々な事情を抱えた国が集まる、世界というレベルで話をまとめていく難しさの一部をのぞいた思いでした。

討論では。

(アジア G 代表)核兵器があるからと言ってその国が平和であるということにはならない。朝鮮半島における北朝鮮の核保有阻止には今すぐ行動しなければならない。

(ヨーロッパ 10 か国 G 代表)NPT 再検討会議が大きな効果を生むと信じてたい、

(エジプト)再検討会議の有効性を確実なものとしなければならない。

(アメリカ)核廃絶をリードしていかなければならない責任は強く感じている。

など様々な意見が次々と出され、アメリカの積極的な発言は印象的でした。

一部を傍聴しただけですが、世界を議論する場面に立ち会うことができたことは、貴重な経験でした。

## ② 天野大使表敬訪問

軍縮会議日本政府代表部特命全権大使である天野大使を、長崎から派遣されている「ナガサキ・ユースメンバー」の皆さんとともに表敬訪問を行いました。

意見交換の中で、天野大使より

ヒロシマ、ナガサキは特殊な都市で、国際レベルの会議に出席し、意見を述べることができる。広く伝え、長く伝えていくという役割がある。と挨拶があった。

「核兵器の人的影響に関する共同声明」について、田上市長からの「今回は被爆国として、共同声明に賛同する立場をとって欲しい」との発言に対し、天野大使は、共同声明の文面が前回より洗練されたものとなっていると評価しながらも、これまで日本が積み上げてきた核軍縮への努力の方向との違いからくる複雑な思いを述べていた。

後日の報道で、日本がこの共同声明に賛同しなかったと報じられています。日本としてはアメリカとの関係で難しい立場はあるものの、共同声明への賛同国が70か国を超えてきている今日、これに賛同しないことで、これまで積み上げてきた核不拡散への努力が、国際的に認められがたいものとなっていきはしないか、厳しい局面となっていると感じる。

## ③ 核廃絶を訴える関連イベントに出席

「ナガサキ・ユース代表団」が核廃絶を訴える関連イベントに出席することができました。

会場ではユースメンバーによる解説で、原爆による被害を訴える「究極のねがい」という自作映像が上映されました。

映画は、被爆後の長崎の様子や、被爆者の証言や活動。などが描かれ、原爆の悲惨さと長年にわたる被爆者の苦痛を訴えています。

その後、参加者との意見交換も行われていたが、スケジュールの都合で中座せざるを得なかったことは残念でした。

## ④ 国連欧州本部内における「原爆常設展」

一昨年(2011年)から設置されている「原爆常設展」会場を視察しました。

それまで米ニューヨークの国連本部には常設コーナーがあったが、欧州本部でも設けられるようになったもの。

常設展では、原爆の熱線を浴びた瓦や陶器。原爆で倒壊した旧浦上天主堂の天使像。やけどを負った被爆者の写真などが展示されています。

当初予定していた内容からは一部変更せざるを得なかったとしながらも、被爆の実相を伝える第一歩を踏み出すことができた常設コーナーです。

以上